

身近な自然環境が 子どもの感性を育む。

葉っぱのカタチや色の違いを不思議がったり、どんぐりを手のひらいっぱい集めたり、蝶々の羽の動きをじっと眺めていたり……。子どもの素直な感覚や行動には驚かされることも多いですね。
そんな自然の営みに接した時の旺盛な好奇心・探究心を大切にすることも、子どもの感性を豊かに育む一つになるのではないのでしょうか。
以前から「子育て・子育て」の研究に取り組み続けている総合住宅研究所は、今回、庭をはじめとする身近な自然環境の効果について調査を行いました。今号ではその結果を交えながら、子どもの感性を豊かに育む住環境についてご紹介しましょう。

日々豊かな 自然体験を。

季節の変化を感じながら、身近に自然と触れ合える暮らしを……。豊かな生活環境としてはもちろんですが、とくに「子育てを考える場合はそんな思いを強く持つ人が多いのではないのでしょうか。」

では、実際に子どもの成長（子育て）に対して、庭をはじめとする身近な自然はどのように影響するのでしょ。総合住宅研究所は、中学生以下の子どもを持つ庭付き戸建住宅に暮らすご家族を対象に調査を実施。実生活に基づく多彩で興味深い回答と様々な知見を得ることができました。

調査結果でまず着目したいのが、パパママの意識です。自身は自然と触れ合う経験が少なかったり苦手だったとしても、子どもには自然体験の機会を与えたいという意向を持つ人が8割を超えるという点です。

なかでも親子一緒にという思いを持つ人が多く、自然体験を通して子どもとのコミュニケーションを深めていくイメージを描かれているようです。

近年ブームのファミリーキャ

ンプにも似たところがありますが、わが家の庭、暮らしに身近な自然というところがポイント。「今日はあの鳥、来てないね」「また新しいどんぐりを見つけたよ」。そんな話題がなげない毎日の暮らしの中に生まれやすくなるのが魅力です。

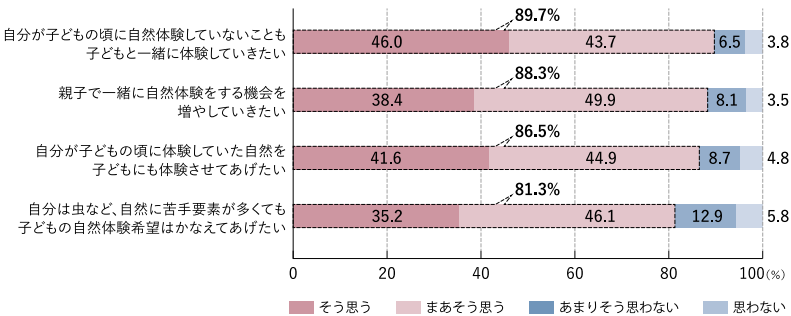
季節や植物の 変化を感じる。

豊かなコミュニケーションの元となる自然体験。これこそが子どもの成長に大きな役割を果たしてくれます。

アメリカの生物学者、レイチエル・カーソンは「子どもが生まれるながらに持っている『センス・オブ・ワンダー（神秘さや不思議さに目を見る感性）』を持ち続けることが大切」と述べていますが、そのためには幼い頃からの自然体験が重要なポイントの一つになると考えられます。

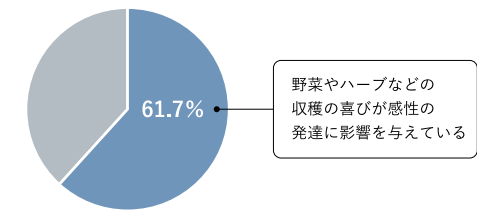
草木や生きものに接することで感動したり、好奇心を育んだり、想像力を働かせたり。そんな体験が生きる力を養うためにかけがえのないものになると言えるでしょう。

■ 8割以上が、子どもに自然体験をさせたい 庭の子育ち・子育て効果に関する調査（積水ハウス総合住宅研究所／2023年／N＝861）



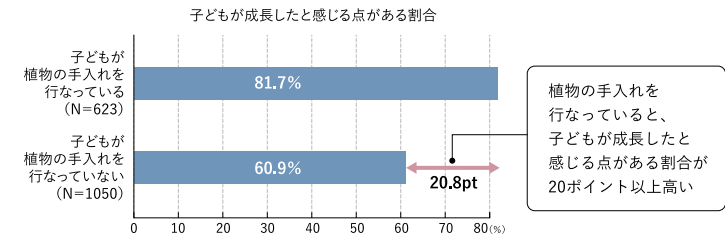
■ 収穫の喜びが感性の発達に有効

庭の子育て・子育て効果に関する調査(積水ハウス総合住宅研究所／2023年)
※庭に「食べられる実のなる木」「野菜、ハーブ」がある回答者 N＝180



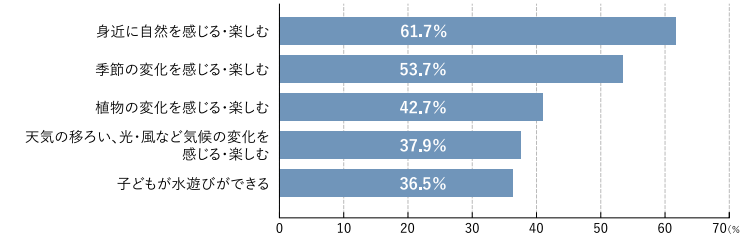
■ 植物の手入れは子どもの成長に効果的

庭の子育て・子育て効果に関する調査(積水ハウス総合住宅研究所／2023年／N＝1673)



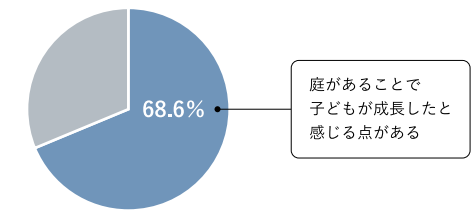
■ 感性の発達に影響する庭要素トップ5

庭の子育て・子育て効果に関する調査(積水ハウス総合住宅研究所／2023年／N＝861)



■ 約7割が、庭の子育て効果を実感

庭の子育て・子育て効果に関する調査(積水ハウス総合住宅研究所／2023年／N＝1673)



手をつける喜びを仕掛ける。

そして、この取り組みは戸建住宅だけでなく、マンションや街づくりでも行なわれているのが特徴。住まいの庭、マンションの外構や中庭、街区の植栽などが地域の自然とつながり、大きな生態系ネットワークを形づくります。そのつながりによって各戸・各マンションの自然環境がより豊かになり、身近な自然体験の多彩さ・幅広さを創り出しています。

より積極的に子どもが自然に関われる環境づくりには、プラスチックの工夫を行なうのがおすすめです。そのキーワードとなるのが“参加”です。

今回の調査でも実際に子どもの成長や感性の発達を感じたと回答した人の多くが、植物・野菜などを育てる体験が効果的だったとしていて、子どもが自ら手をかける仕掛けが大切だと考察できます。

自分で種まきや苗植えをした植物が少しずつ育っていく様子をリアルに観察するのはもちろ

それでは調査で得られた、子ども自身の成長と身近な自然環境の効果についてご紹介しましょう。

庭があることで子どもが成長した点の有無を調べたところ、約7割の人が「成長したと感じる点がある」と回答。五感で感じる力や表現力などの感性の発達面をはじめ、他者への思いやりや実行力など、様々なことに対して子どもが成長したと実感していることがわかりました。

とくに幼児期から小学校低学年の子どもの成長を感じることが多く、4～6歳での成長実感は約8割に。この時期は学習効率が高く、子どもの才能に大きな影響を及ぼすと言われる感受性期にもあたります。

また、感性の発達(五感で感じる力、表現力など)に影響を与えている庭要素を尋ねると、「身近に自然を感じる・楽しむ」がトップで6割以上。次いで「季節の変化を感じる・楽しむ」「植物の変化を感じる・楽しむ」が挙げられました。

いつも身近に自然を感じ、季節の巡りや植物の変化を楽しむ。日々を豊かに彩る暮らしのシーンは、子どもの成長により良い影響を与える環境につながります。

自然の仕組みを知る、学ぶ。

では、自然体験の充実を図るには、どのような環境づくりが効果的なのでしょうか。

それは単に緑の量の多さや花の美しさだけでなく、自然の成り立ちに添って様々な草木や生きものが共存しあえる環境づくりを行なうことがポイントです。自然界の仕組みが感じられる環境を身近に設けることで、豊かな自然体験が普段の暮らしの中でかなえやすくなります。

その一例が積水ハウスの提案する「5本の樹」計画です。3本は鳥のため、2本は蝶のために、地域の在来樹種を」という思いを込め、日本古来の里山をお手本にした庭・外構づくりを長年にわたって実践しています。

地域の気候風土にマッチし、鳥や蝶などと相性の良い在来樹種を中心とした植栽にこだわることで、生きものの自然な営みが育まれていきます。草木の芽生えや開花・繁り・色づきだけでなく、鳥や蝶などの訪れにも季節の巡りや自然の仕組みを感じとれる環境が暮らしの身近に生まれるのです。

ん、季節の流れや虫との関係性を目の当たりにしたり、水やりや雑草取りなどのお手入れの大切さを知るなど、多くのことを感じて学ぶ機会を得ることができます。

育てる植物が野菜やハーブなら収穫する喜びも体験でき、食べ物への感謝の気持ちなども高まるかもしれません。なかには自分が育てることで野菜嫌いがなくなったというケースもあるなど、様々な波及効果も期待できそうです。

マンションの場合なら、ぜひバルコニーやテラスでのプランターガーデンにチャレンジしてみてください。LDKに面することが多いのでお手入れもしやすく、季節の眺めとして楽しめるのも素敵。お気に入りの草花を育てるのも良いですが、少し深めのプランターを用意すれば野菜づくりも可能です。

収穫の楽しみだけでなく、野菜の花はどれも愛らしいのも魅力的なポイント。親子で植物図鑑を広げて、花と作物の美味しい関係を調べてみるのも楽しそうですね。わが家の身近な自然で、知る喜びを味わってみませんか。

愛らしい野菜の花



5



5 リビング直結のバルコニーなら、プランターやガーデンファニチャーのデザインにもこだわって。(GM大濠テラス／福岡県)

6

6 広いテラスなら複数のプランターを使って植物の充実を。鳥や蝶が訪れることも期待できます。(GM江古田の杜／東京都)



6

1 中庭では水浴びに訪れる鳥たちを観察できるのが魅力。季節の渡り鳥が立ち寄ることも。(GM伊丹池尻リテラシティ／兵庫県)

2 下草の繁みや石の隙間は虫たちの棲み家。様々な生きものとの出会いが貴重な自然体験になります。(GM仙川／東京都)

3 季節ごと表情を変える多彩な植栽。花や葉や実の種類も豊富で好奇心・探究心を育みます。(GM池下ザ・タワー／愛知県)

4 街づくりの植栽も地域の気候風土に添った樹種を選定。生態系とのつながりを大切にしています。(福岡アイランドシティ／福岡県)

* GM：グランドメゾン

3



4

1



2

